

平成 31 年 3 月 13 日

日本現代アートサミット 2019
「トランス／ナショナル：グローバル化以降の現代美術を語る」
公開キーノートレクチャー
アレクサンドラ・モンロー（3/19），デヴィッド・エリオット（3/21）

技術革新や移動手段の多様化によって政治、経済、社会が従来の国境が曖昧になるグローバル化の波は、現代アートを取り巻く環境にも大きな変化をもたらしてきました。現代アートの活動は、ギャラリーや美術館だけでなく、世界各地で創出されたビエンナーレやトリエンナーレ、アートフェアなどでも活発に行われ、アーティストやキュレーター、コレクターの行動範囲も地球規模に拡大しています。

経済新興国など新しい動向が注目される地域では、新しいアートシーンや市場の発展にともなって、そこから生まれるアートにも注目が集まるなか、日本の現代アートの国際的な存在感は相対的に低迷しているようにも見えます。

こうした状況に鑑み、文化庁では日本の現代アートの国際的なプレゼンスと理解を高めることを目的に、2018年度から、アートプラットフォームの形成に向けた事業を新たに立ち上げ、その一環として、国内外のキュレーター、研究者、アーキビストなどのネットワーク構築を目指す「日本現代アートサミット」（招待制）を実施します。

本サミットの一般公開プログラム「キーノートレクチャー」では、2019年のサミットのテーマ「トランス／ナショナル：グローバル化以降の現代美術を語る」に基づき、1980年代以降に日本の現代アートを海外に紹介した主要な展覧会の企画者、アレクサンドラ・モンロー氏とデヴィッド・エリオット氏をお招きします。

当時の時代背景も踏まえながら、いかに日本の現代アートを分析し、異なる観客に提示したのかを再訪することで、21世紀の今日にひとつの国の現代アートを語るためのヒントを探ります。

参加費不要。どなたでも御自由に御参加いただけます。

<概要>

【キーノートレクチャー①】

「Japanese Art in America: Reflections on My Life's Work as Curator, Scholar and Activist」

- 講師：アレクサンドラ・モンロー（ソロモン・R・グッゲンハイム美術館 アジア美術部門サムソン上級キュレーター／グローバル美術部門上級アドバイザー，グッゲンハイム・アブダビ・プロジェクト キュレトリアル部門暫定ディレクター）
- モデレーター：片岡真実（森美術館副館長兼チーフ・キュレーター）

- 日時：2019年3月19日（火） 18:30～20:00（開場 18:00）
- 会場：六本木アカデミーヒルズ（東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー49階）
- 定員：150名
- 言語：英語（英日同時通訳あり）
- 協力：森美術館

【キーノートレクチャー②】

「RECONSTRUCTION, TRANSMISSION & STEREOTYPE:
3 APPROACHES TOWARDS CONTEMPORARY JAPANESE ART」

- 講師：デヴィッド・エリオット（紅専廠 Redtory Museum of Contemporary Art (RMCA) 副館長兼シニアキュレーター）
- モデレーター：林道郎（上智大学国際教養学部教授）

- 日時：2019年3月21日（木・祝） 17:00～18:30（開場 16:30）
- 会場：国立新美術館 3階講堂（東京都港区六本木 7-22-2）
- 定員：150名
- 言語：英語（英日同時通訳あり）

<参加申込み>

御参加を御希望の方は、下記サイトから御登録ください。

<https://form.run/@keynote>

<担当> 文化庁 文化経済・国際課
課長補佐 林 保太 （内線 4847）
連携推進係 藤井 亮介 （内線 4844）
電話：03-5253-4111（代表）
03-6734-4844（直通）